

学校評価(共通項目)評価書

朝霞市立朝霞第四中学校

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	A	学校教育目標の具現化を図るために、25地区道路指導キャリア教育の委嘱や朝霞市研究開発学校を受けたことによる研究授業を行い、授業力、学級経営力の向上を目指した研修を行った。さらに、教職員間での報告、連絡、相談や保護者との連携など、課題に対して情報交換し、共通理解を図ることを迅速に行っていく。そして、必要に応じて校務分掌や学年会等での組織的な対策を必要と重視していきたい。	A	学校教育目標達成のために、研究授業や情報交換など、組織的に取り組んでいる。また、校長室だより等の校長からの働きかけに対して教職員がよく理解して取組を進めている。情報交換、共通理解の迅速化にも校長室だより、学校だよりの発行が役立っている。さらに各学年の教員が常に連携を取り合いながら生徒を見守り、生徒の自発性を育てている。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。	B	生徒未然事故防止のために「ベランダ出入禁止」「危険転落注意」のステッカーを作成し、全教室及び廊下、トイレの窓に掲示した。また、朝霞警察署から委嘱された「自転車マナーアップ推進校」の取組として朝霞警察署の方を講師として招き、自転車マナーアップ講習会を実施した。さらに、危機管理マニュアルに基づく、生徒及び教職員事故防止に関する教職員の研修、避難訓練の実施や学校安全点検など、危機管理意識を持つ取組を継続していきたい。	A	学校内外の見回りをきちんとしており、危険度の高いところに対して優先順位をつけながら対応している。また、不審者情報への迅速・的確な対応、生徒の登下校におけるマナーを向上させる指導など、安心・安全な学校生活への実現に向けて、細かな配慮をしている。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	言語に関する知識や数学の計算等の校内検定試験を定期的に実施してきた取組等により、全国学力学習状況調査・埼玉県学力学習状況調査での本校の達成度が概ね埼玉県や全国の平均値をやや上回るという成果が出ている。今後も家庭学習を含めた学習習慣を定着させていきたい。また、基礎的・基本的な学習については、達成度の低い学習者に対して、補習的な学習の時間確保などの対策を検討していきたい。	A	授業参観を通して、授業に向き合う姿勢がどの学年・クラスとも素晴らしいことに感動する。こうした学習に取り組む生徒の意欲の高さには、学習習慣を定着させるための教職員の組織的な取組に対する成果が伺える。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	A	今年度校内研修テーマ「生徒の心を耕し、望ましい人間関係をはぐくむ積極的な生徒指導」に向けて、授業研究を実施し、学級経営力、授業実践力の向上を図った。また、タブレットPC・電子黒板等の活用によるICT教育の推進をしていくために、担当者による研修会を実施した。今後も継続し、実践交流のために十分な授業研究期間を設定する。そして、全国や埼玉県の学力学習状況調査に見られる生徒の実態に即した授業改善を図っていく。	A	授業の様子から、教師の指導力の高さを感じる。特に、若手教員が元気で授業している姿を見ると、授業研究とともに専門性を高めていると感じる。また、生徒の個性を大切にしながら、より良い教育を日ごろから心がけている。さらに最新の情報機器を授業に活用するなど、教職員が授業研究に熱心に取り組んでいる。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	B	埼玉県学力学習状況調査生徒質問紙の「規律ある態度」達成目標について、県の達成率を下回った項目「身の回りの整理整頓をする」に対して、下足の靴をそろえることや机や個人ロッカーの中の整理整頓をさせる生活指導を推進した。登校時には生徒玄関に学年の副担任が立ち、挨拶や下足の靴をそろえさせる等、日常の生徒観察で細かいことでも見逃さずに指導し、教師間で情報を共有し合うことを重視した。その結果として「規律ある態度」では、「進んで挨拶する」項目で県・市よりも、高い達成率を示している。	A	制服着用に関係のあることは皆無といえる。また、朝、声をかけると挨拶は必ず帰ってくる。さらに教室内の整理整頓の指導、掲示物の工夫が各学年とも素晴らしい。校舎全体の印象を明るくしている。目標を明確にして全職員が取り組んだ成果が伺える。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	A	埼玉県学力学習状況調査生徒質問紙の「規律ある態度」達成目標について、県の達成率を下回った項目「話を聞き発表する」に対して、授業規律を元にした「四中授業スタンダード」を全ての教室に掲示することを徹底した。そして、全ての教育活動の中で「四中授業スタンダード」の「返事をし、はっきり答える」「集中して聴き、進んで課題に取り組む」との項目を教師の共通行動として徹底を図ることで、今年度校内研修テーマ「生徒の心を耕し、望ましい人間関係をはぐくむ積極的な生徒指導」にて目指す生徒像への手だてとした。	A	生徒の授業に取り組む姿勢が積極的で、とても落ち着いている。「四中授業スタンダード」の取組等で職員間に指導のずれがない。常に生徒への関心を持って接している教職員の姿からは、生徒への面倒見の良さが感じられる。今後も「四中スタンダード」の推進に期待している。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	B	「体力向上のため体育の授業や部活動に積極的に取り組んでいる」との質問に対して「できて」と回答した生徒、保護者共に多かったことから、運動することへの参加意欲が年々向上していることがわかる。また、昼休みに校庭で、体育委員が管理している各学級に配置したボールを使って、ボール遊び等に取り組んでいる生徒も多い。そこで体育委員が学級ごとに昼休みに校庭での人数を把握し、さらに運動を活性化させるために案を出すなど、生徒が主体的になる取組を検討していきたい。	A	朝の挨拶運動の時、早朝から部活動の練習に頑張っている生徒たちの姿に感動する。部活動で学校のランニングコースを走る生徒の姿勢から、体力作りに対して意欲的なものを感じさせる。個人差はあるものの、体力向上に積極的に取り組んでいる生徒が多い。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	B	授業の中で、生徒の発達段階に応じた基礎体力作りの時間を、体力向上策として継続している。さらに新体力テストの結果を検証し、個に応じた補強的なトレーニングの時間を授業で確保していきたい。また、運動部を中心に部活動での練習時に、共通してランニングを強化させるなど本校の重点的な取組も検討する必要がある。近年、本校の部活動にて各種大会やコンクール等で実績を上げている部が増えている。保護者、地域の支えを元に今後も体力向上策を検討していきたい。	A	健全な精神の持続には健康・体力の向上が基本であり、規律ある態度の育成にもつながるものだと思う。そのため、体力向上について、体育の授業の中で継続的な取組を行っていることはとても良い。運動部の各種大会での実績向上がみられ、学校全体で組織的に体力向上に取り組んでいる様子が感じられる。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	B	小・中・高の連携を展望した取組として、県立朝霞西高校から教員を招き、本校2年生を対象として、出前授業を実施した。また、第八小学校との合同研修会や、小中交流授業参観を実施した。また、公開週間等で授業を参観していただいた保護者や地域の方にアンケートを実施している。その様な意見や感想を職員全体に紹介し、学校と保護者や地域の方々の協力体制を整えていくために相互理解から始めていきたい。	A	小学校・高校との交流などが成果を上げていることから、小中高の連携が充実していると感じる。また、校長・教頭をはじめ教職員は、常に保護者や地域の方々を大切に接している。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	A	毎月第1水曜日登校時に、民生委員や児童委員の方々と生徒会で、あいさつ運動を実施している。生徒会では場所を隣接している第八小学校正門で小学生にも挨拶を呼びかけている。また、「親親隊」との名称で保護者の方々と生徒の協力による学校環境整備活動を年間3回程実施している。さらに参加者を増やすことによって、保護者、地域の方々が、生徒や教職員と一体となって学校作りを推進していくことで、地域に開かれた学校作りを目指していきたい。	A	朝の挨拶運動も定着していることで、地域に開かれた四中として、地域との一体感があり、保護者・地域と連携して生徒の指導にあたっているのが感じられる。また、ふれあい祭りの開催規模の大きさなどから、保護者・地域の協力体制の強さを感じる。

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA~Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満